

地域公共交通計画の改訂（部分見直し）について

1 制度改正について

姫路市では、令和3年7月に姫路市総合交通計画（以下「総合交通計画」という。）を策定し、公共交通等の取り組みを進めている。

令和2年11月に「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」（以下「地域公共交通活性化再生法」という。）が改正され、あわせて地域公共交通計画の作成の努力義務化、計画における補助系統等の位置付けの補助要件化（計画と補助制度の連動化）が行われた。

（補助の流れ）

	現行		改正 (令和7年事業年度～)	
	補助計画	交付先	補助計画	交付先
幹線	生活交通確保維持改善計画 (兵庫県が作成し、 <u>兵庫県生活交通対策地域協議会</u> にて審議)	乗合事業者	市町村法定計画 (姫路市が作成し、 <u>姫路市地域公共交通会議</u> にて審議)	<u>姫路市地域公共交通会議</u> 又は <u>乗合事業者</u>
フィーダー	地域内フィーダー系統確保維持計画 (姫路市が作成し、 <u>姫路市地域公共交通会議陸運分科会</u> にて審議)	<u>姫路市</u>	市町村法定計画 (姫路市が作成し、 <u>姫路市地域公共交通会議</u> にて審議)	<u>姫路市地域公共交通会議</u>

2 地域公共交通計画改訂について

総合交通計画は、「地域公共交通計画」として認定されているものの、計画策定時には、計画と補助制度の連動化についての明確な指針が示されていなかったため、補助要件を満たしていない。

そのため、計画と補助制度の連動化を図るため、総合交通計画について部分的な見直しを行う。なお、総合交通計画改定内容は、総合交通計画の別冊として整理する予定としている。

3 総合交通計画における補助関連の記載事項について

【Step 1】 補助系統の地域公共交通における位置付け・役割について整理

【Step 2】 地域公共交通確保維持事業の必要性を記載

【Step 3】 補助系統に係る事業及び実施主体の概要を整理

【Step 4】 地域公共交通全体の定量的な目標・効果とその評価手法を整理

解説パンフレット（抜粋）

《計画と補助制度の連動化 記載イメージ》

Step 1 補助系統の地域公共交通における位置付け・役割について整理しましょう

地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統(補助系統)の地域の公共交通における位置付け・役割について、表・地図を使って分かりやすく整理しましょう。

Check! 系統の記載
表内の系統名は図と整合させて記載してください。

Check! 取組の方向性の記載
幹線・フィーダーの将来像や、コミュニティバス・デマンド交通等に係る取組の方向性などを記載してください。

<表での整理イメージ>

位置付け	系統	役割	確保・維持策
広域幹線	各鉄道路線	都市拠点から市外への広域交通を担う。	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保
地域内幹線	乗合バス 水色系統	××駅を発着地として、市内並びに隣接市の各拠点を連絡する。	地域公共交通確保維持事業(幹線補助)を活用し持続可能な運行
	乗合バス 赤系統		
支線	乗合タクシー(区域運行) 橙系統	市内各地域を運行し、軸となる幹線や地域拠点に接続する。	交通事業者と連携した取組により一定以上の需要を確保
	乗合バス 青系統、黄緑系統		

<地図での整理イメージ>



Step 2 地域公共交通確保維持事業の必要性を記載しましょう

Step 1 で整理した位置付け等を踏まえ、対象地域における補助事業の必要性について記載しましょう。

<説明イメージ>

- 赤系統は、XX市内外の拠点間を連絡し、通勤通学、買物、通院等の日常生活行動だけではなく、観光、ビジネス等、多様な目的での移動を担う。起終点の××駅前並びに☆☆バスターミナル、経由地である〇〇支所では、他モードや地域内交通と連絡し、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担っている。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
- 青系統は、地域拠点である〇〇支所から周辺部の居住地や、□□病院等の生活必需施設を連絡する近距離の路線であり、地域の移動手段としての役割を担っており、また、〇〇支所では赤系統への接続により広域への移動も可能とするなど、赤系統を補完する欠かせない路線である。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。
- 黄緑系統は、地域拠点である〇〇支所から・・・(以下略)

Check! 補助事業の必要性
地域の公共交通ネットワークにおける各補助系統の機能や役割を文章で具体的に記載してください。

Step 3 補助系統に係る事業及び実施主体の概要を整理しましょう

補助系統を含む地域公共交通の事業及び実施主体の概要について、表などを使って整理しましょう。

Check! **整理対象の事業**
補助系統以外も含め、全体の事業内容や事業区分等を記載してください。

Check! **実施主体の記載**
主体が行政なのか交通事業者なのかは必ず明記してください。

Check! **補助系統の記載**
補助系統を明示してください。

系統名	起点	経由地	終点	事業許可区分	運行態様	実施主体	補助事業の活用
赤系統	××駅前	〇〇支所	☆☆BT	4条乗合	路線定期運行	交通事業者	幹線補助
青系統	〇〇支所		□□病院	4条乗合	路線定期運行	交通事業者	フィーダー補助
橙系統	◇◇地区内			4条乗合	区域運行	XX市(運行は交通事業者に委託)	なし
...							

Check! **車両購入費補助に関する記載**
車両購入費補助の活用を見込む場合は、その旨、記載してください。

Step 4 地域公共交通全体の定量的な目標・効果とその評価手法を整理しましょう

地域が自らの目指す方向性に合わせて、具体的な数値指標・目標値を設定します。加えて、各数値指標の評価方法についても記載してください。なお、「標準指標」である地域公共交通の利用者数や収支状況、当該地域公共交通に投じられる公的負担額などの目標・効果は、特に補助事業を活用する場合には、必ず全ての計画において設定してください。

目標	数値指標	データ取得方法	現況値(R元年度)	目標値(R6年度)
交通事業者との連携強化による路線の維持・改善	市内路線バスの年間利用者数	バス事業者保有の乗降データにより毎年計測	50,000千人/年	55,000千人/年
	青系統の年間利用者数		2,000千人/年	2,100千人/年
市民の外出機会の創出	市民における路線バスの利用率	市民意識調査により毎年計測	40%	45%
地域全体で支える持続可能な公共交通	公共交通に係る市の財政負担額	普通会計決算より毎年整理	3,700万円/年	3,800万円/年
	市内路線バスの収支差	事業者報告書、決算報告書等の資料から毎年計測	▲4,500万円/年	▲4,000万円/年
...				

Check! **数値指標・目標値**
地域公共交通計画全体の定量的な目標を設定してください。

Check! **個別系統の目標**
基本的に、個別の補助系統に関する目標・評価手法等は別紙に記載してください。ただし、特に重要な系統については、個別の補助系統に関する目標を本体に記載しても構いません。

Check! **単位について**
利用者1人当たり又は住民1人当たりでも差し支えありません。

Check! **収支について**
収支については、収支率でも差し支えありません。

Check! **データ取得手法**
具体的なデータ取得方法について記載してください。

(出典:国土交通省総合政策局地域交通課)